



# アジェンダ

01 中小企業における財務諸表の役割と重要性

02 財務諸表の種類

03 BS（バランスシート）

04 PL（損益計算書）

05 キャッシュフロー計算書

0 1 中小企業における財務諸表の役割と重要性

0 2 財務諸表の種類

0 3 BS（バランスシート）

0 4 PL（損益計算書）

0 5 キャッシュフロー計算書

## 事業の健全性や収益性の判断材料になる

### 役割

### 重要性

経営状況の把握

貸借対照表（BS）には、企業の資産、負債、純資産の状況が記載されています。損益計算書（PL）には、企業の収益、費用、利益の状況が記載されています。これらの情報を基に、**企業の現状を把握し、必要な対策を講じる**ことができます。

資金繰りの管理

キャッシュフロー計算書（C/F）は、企業の資金繰りを管理するための重要な情報源となります。これにより、**資金不足に陥ることを未然に防ぎ、必要な資金調達の計画を立てる**ことができます。

経営判断の材料

財務諸表に記載された情報を分析することで、**企業の課題や改善点を把握し、経営方針の修正や改善策**の実施を行うことができます。

外部への情報提供

財務諸表は、**企業の健全性や信頼性を外部にアピール**するための重要な情報源となります。そのため、正確かつ適切な財務諸表を作成することは、**企業の信用を高める**ために不可欠です。

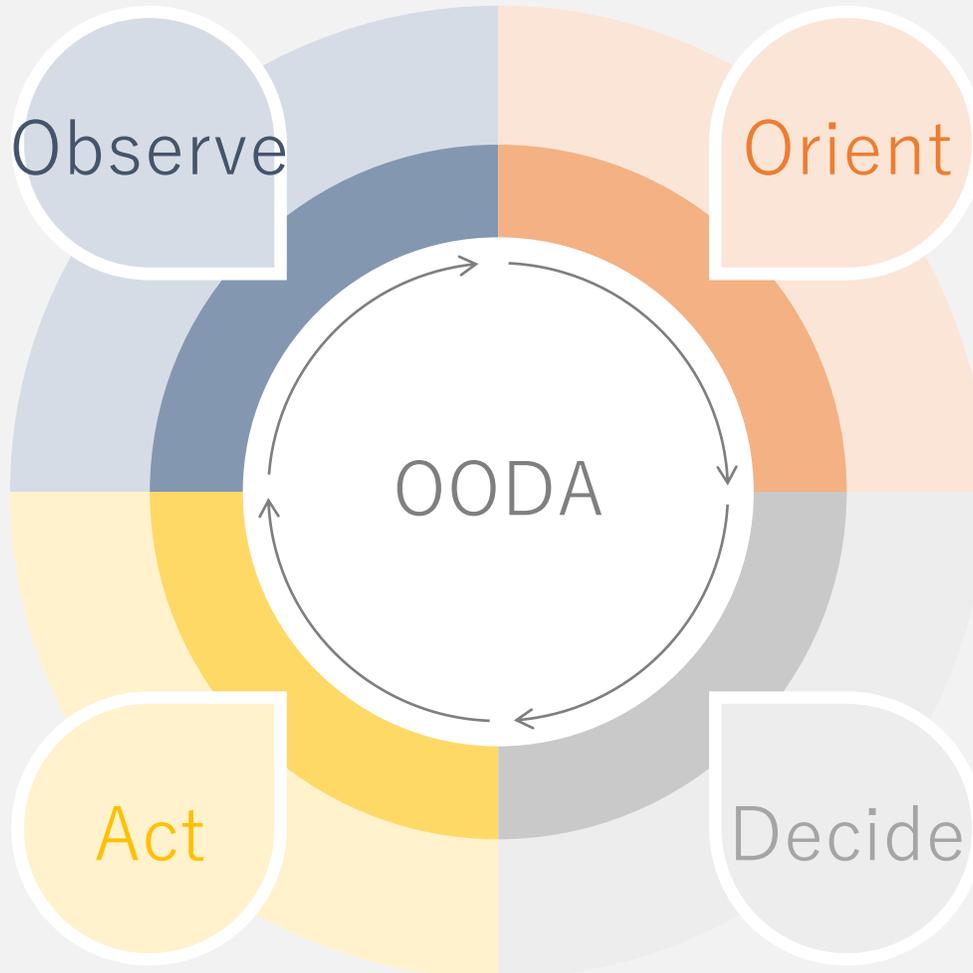
## 事業を正しいサイクルに導く

### データ収集

- 収益性
- 資金繰り
- ストック / フロー

### 決定事項の実行

- 銀行へ融資相談
- 外部発信の精査
- 事業計画の振り返り



### データ分析

- 信用度は？
- 課題は？
- 健全性は？

### 意思決定

- ベアする / しない
- 投資する / しない
- 求人する / しない

会社全体に関わる意思決定ができるのは、経営者だけです。  
財務諸表（＝道具）を使いこなして、正しい経営判断をして下さい。

0 1 中小企業における財務諸表の役割と重要性

0 2 財務諸表の種類

0 3 BS（バランスシート）

0 4 PL（損益計算書）

0 5 キャッシュフロー計算書

# 代表的な 3 つの財務諸表

役割

種類

BS

PL

C/F

## 作成できなくとも、読める事が必要

貸借対照表

BS

資産と負債の状況を示す財務諸表の一つであり、企業の経営状況を把握するための重要な情報源

損益計算書

PL

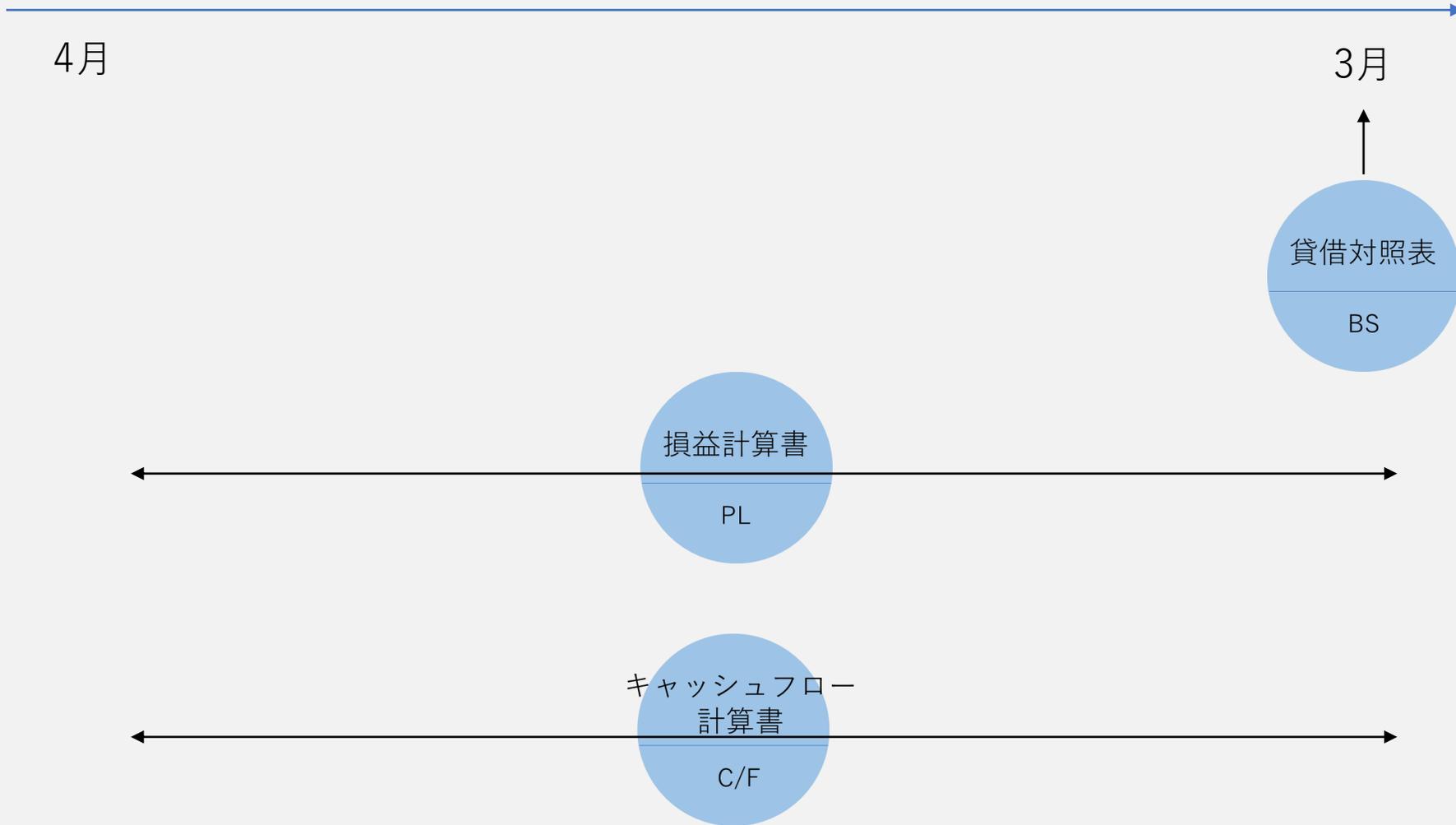
営業活動による収益と費用を示す財務諸表であり、企業の収益性を把握するための重要な情報源

キャッシュフロー  
計算書

C/F

営業活動による収益と費用を示す財務諸表であり、企業の収益性を把握するための重要な情報源

# フォーカスする「時間軸」



※ 3月決算の企業を想定しています。また、PLとC/Fは必ずしも1年間にする必要はありません。

# 3つの財務諸表の関係（例）

役割

種類

BS

PL

C/F

## 3つの財務諸表は関連があり、事業経営上は切り離せない

企業が損益計算書上で利益を上げている場合でも、

損益計算書

PL



貸借対照表上での負債が増加している場合は、

貸借対照表

BS



キャッシュフロー計算書を分析することで、

キャッシュフロー  
計算書

C/F



その背後にある現金の収支の問題を把握することができます。

1つの財務諸表に注視するのではなく、全体を俯瞰してみる必要があります。  
この場合、それぞれの財務諸表の相関関係を頭に入れておくことが重要です。

0 1 中小企業における財務諸表の役割と重要性

0 2 財務諸表の種類

**0 3** BS（バランスシート）

0 4 PL（損益計算書）

0 5 キャッシュフロー計算書

## 必ず、左右の合計が一致（バランス）している

### 資産

- **流動資産**：現金商品や製品の在庫など、企業が短期間で現金化できる資産が含まれます。
- **固定資産**：不動産や建物、機械装置や車両、特許や商標など、企業が長期間にわたって所有する資産が含まれます。
- **その他の資産**：上記に該当しない、その他の資産が含まれます。

### 負債

- **流動負債**：企業が短期間に支払わなければならない債務が含まれます。
- **固定負債**：企業が長期間にわたって支払わなければならない債務が含まれます。
- **その他の負債**：上記に該当しない、その他の負債が含まれます。

### 純資産

- 企業が保有する総資産から総負債を引いた金額が含まれます。  
企業の純資産は、自己資本とも呼ばれます。

## 1年以内に現金化できる資産であり、企業の日常的な運転資金に不可欠

1. **現金・預金**：企業が保有する現金や預金、通貨、小切手、そして短期間で現金化可能な金融商品が含まれます。企業が支払いを行う際に用いられる資金源として重要な役割を果たします。
2. **売掛金**：企業が提供した商品やサービスの代金を受け取る権利を有する債権です。企業が提供した商品やサービスの代金を受け取ることができるため、現金化が可能です。
3. **在庫資産**：企業が保有する商品や原材料、製品などの在庫です。在庫資産は、企業の事業活動に直接関わるため、短期間で売却可能なものは流動資産として計上されます。
4. **前払費用**：企業が支払うべき費用のうち、事前に支払ったものが前払費用となります。例えば、保険料や家賃前払いなどが含まれます。

流動資産は企業の短期的な支払いに対応するために必要な資産であり、貸借対照表において資産の部の中で最も重要な項目の一つです。企業が正常な経営を行うためには、流動資産の適切な管理が必要です。

## 長期的に使用され、1年以上の期間で使用されることが期待される資産

1. **土地**：建物を建設するための土地や、工場や倉庫の敷地などが該当します。土地は、長期的な視野で資産価値が維持されることが期待され、しばしば不動産投資の一環として所有されます。
2. **機械装置**：生産のために必要不可欠なものであり、一度設置したら数年間使用されます。企業が生産ラインを変更した場合には、必要に応じて新しい機械装置に置き換えられます。
3. **車両**：トラック、バス、自動車など、目的に応じた車両が企業の業務に必要となります。これらの車両は、多くの場合、長期的な使用を想定して購入されます。
4. **コンピューター・ソフトウェア**：コンピューターやサーバー、プリンター、ソフトウェアなどは、企業の業務に必要不可欠なものであり、長期的な使用を前提として取得されます。

固定資産の適切な管理は企業価値に大きな影響を与えるため、企業は固定資産について慎重に検討し、適切に管理する必要があります。

## 1年以内に返済しなければならない借入金や、仕入債務などの負債

1. **仕入債務**：企業が仕入れた商品や原材料に対する支払い義務のこと。これは、企業が商品を販売して売り上げを上げた後に支払うことになります。
2. **借入金**：企業が銀行などから借り入れた資金に対する返済義務のことです。これは、企業が資金を調達するために利用する方法の一つであり、返済期限が短期的であれば、流動負債として認識されます。
3. **未払金**：企業が支払いを先延ばしにしている請求書や、社員の給与などの未払い分に対する支払い義務のことです。これらは、支払期限が1年以内に迫っている場合には、流動負債として計上されます。
4. **未収収益**：企業がまだ受け取っていない売上やサービスに対する収益のことを指します。例えば、企業が製造した商品を納品したが、まだ代金を受け取っていない場合には、未収収益として流動負債に計上されます。

企業の短期的な支払い能力を評価する際には、流動負債の総額と、それを賄うための流動資産の総額を比較することが重要となります。

## 企長期的に返済しなければならない借入金や、リース契約などの負債

1. **債務超過金利**：企業が債務超過に陥っている場合には、借入金に対する金利が高くなる場合があります。これは、貸し手が返済リスクを高く評価しているためです。債務超過金利は、企業が長期的に返済しなければならない固定負債の一つです。
2. **社債**：企業が社債を発行して資金を調達する場合、発行した社債に対する利息や元本の返済が長期的な支払い義務となります。社債は、企業が長期的な資金調達をするための手段の一つです。
3. **リース契約**：企業が不動産や設備などをリースする場合には、支払い期間が長期になる場合があります。リース契約による支払い義務は、長期的な固定負債として企業の財務状況に影響を与えます。
4. **長期借入金**：企業が銀行から長期的に借り入れた資金に対する返済義務のことです。企業が長期的な投資を行う際には、長期借入金を活用することがあります。長期借入金は、企業が長期的な支払い義務を抱える固定負債の一つです。

固定負債は、企業の長期的な支払い能力を評価する際に重要な要素となります。

## その時点の分析しかできないが、財務諸表の主役ともいえる存在

1. **期間の比較**：貸借対照表はあくまでもある時点での企業の財務状況を表しているため、期間の変化を把握するためには過去の貸借対照表との比較が必要です。過去の貸借対照表と比較することで、企業の財務状況に変化があるかどうかを把握することができます。
2. **比率分析**：貸借対照表の金額をもとに比率分析を行うことで、企業の財務状況を客観的に評価することができます。例えば、流動比率や自己資本比率などの比率を算出することで、企業の支払い能力や財務安定性を評価することができます。
3. **非財務情報との照らし合わせ**：企業の業績や市場シェア、顧客満足度などの情報を取得することで、企業の将来性や成長性などを評価することができます。

企業の財務状態を表す貸借対照表は、資産、負債、純資産のバランスを示し、企業の健全性を評価する重要な財務諸表の1つである。

0 1 中小企業における財務諸表の役割と重要性

0 2 財務諸表の種類

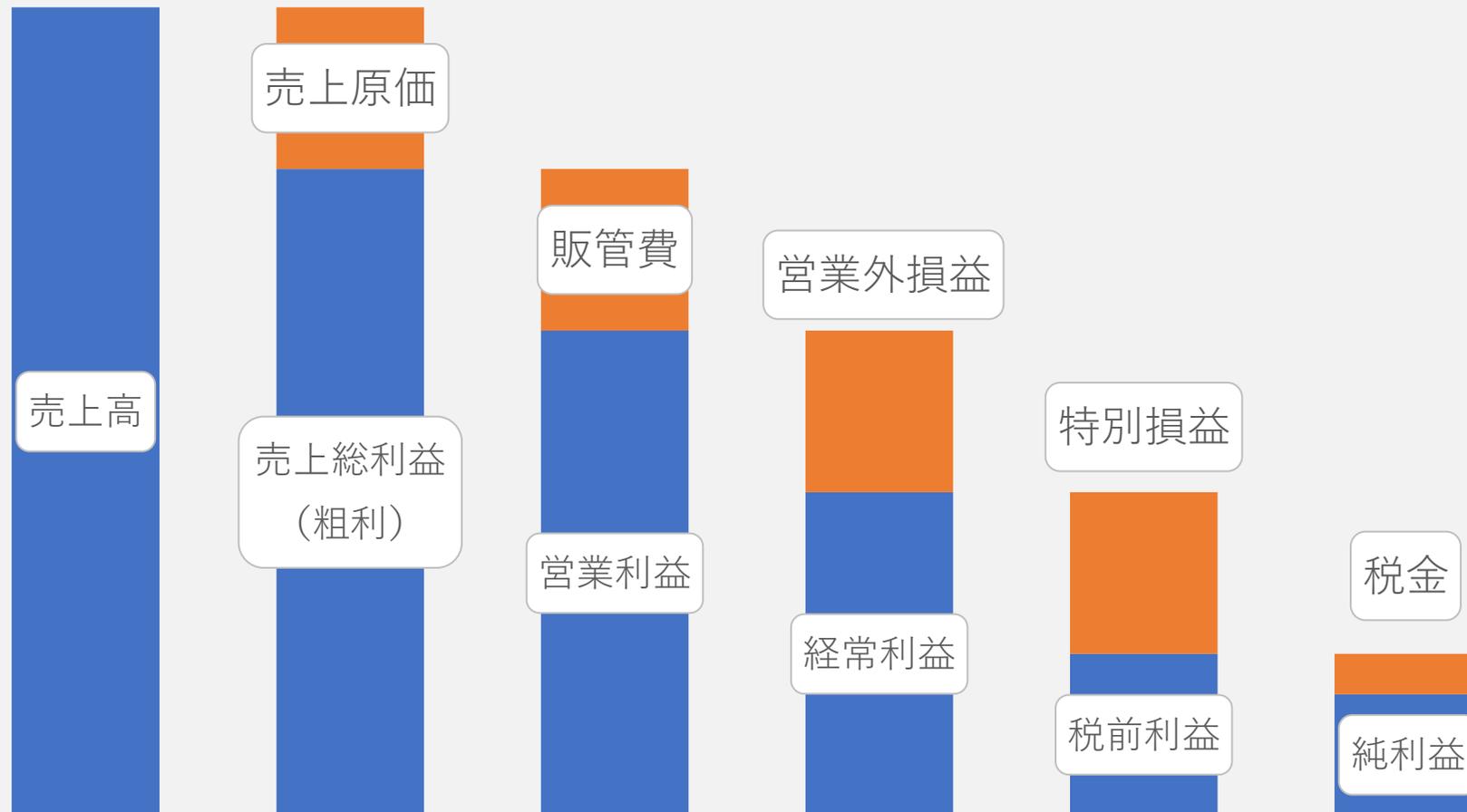
0 3 BS（バランスシート）

0 4 **PL（損益計算書）**

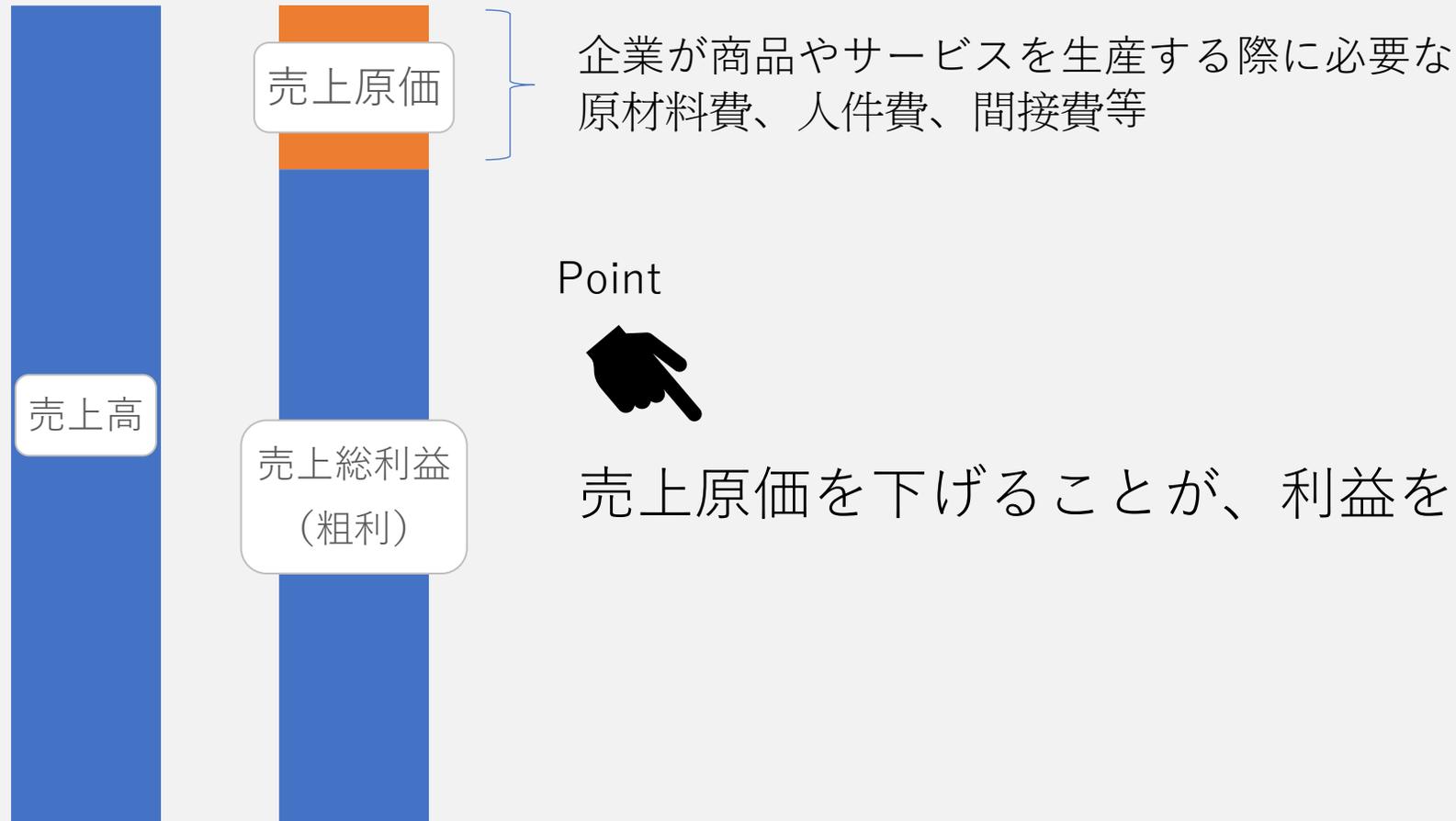
0 5 キャッシュフロー計算書

# 利益の種類

どの角度から見るかによって、知るべき利益が変わる



## 事業の収益性を評価



## 事業の本来の利益



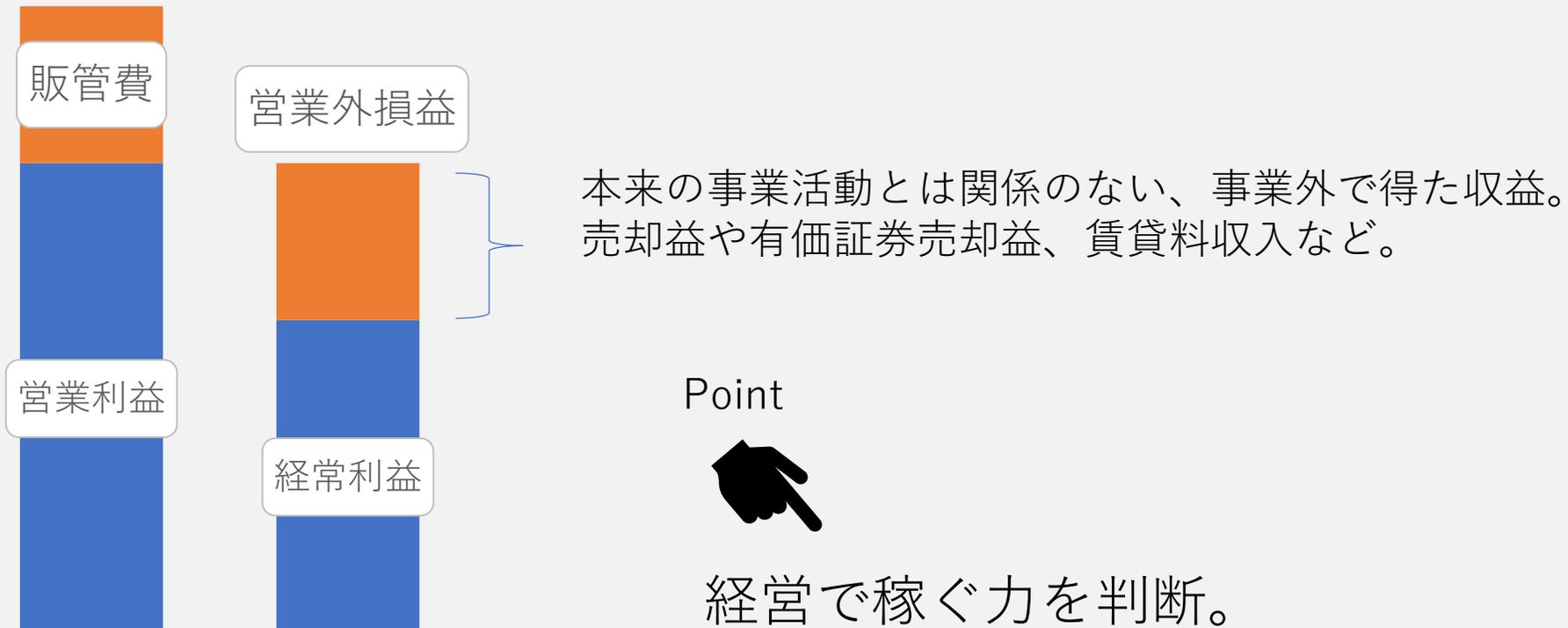
商品やサービスを販売するために必要な  
広告宣伝費、営業手当、交通費、電話代、給料、  
家賃、水道光熱費、事務用品費、修繕費など

Point



事業の健全性を評価できる。

## 企業が財務的に持続可能な経営を行っているかどうかを判断



特別損益は通常業務とは異なるため、分析に際しては取捨選択が必要

Point



特別損益は基本的に『繰り返し』ができないもの。

通常業務とは関係のない一時的な事象によって発生する損益。自社の不動産や株式の売却による利益、地震や自然災害による損失、リストラに伴う費用

営業外損益



経常利益

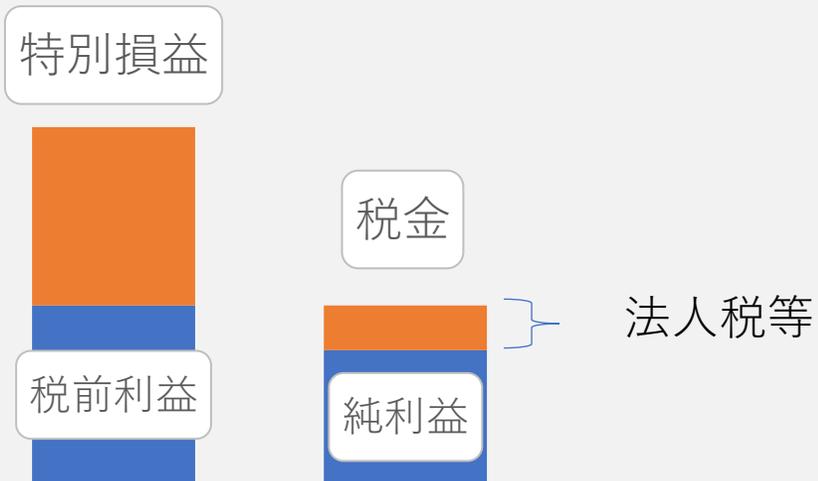
特別損益



税前利益

# 利益の種類

## 企業の業績を総合的に評価する上で重要な指標



損益計算書は企業の経営状況を示す重要な財務諸表の一つであり、収益性や業績の評価、投資判断の材料となるため、企業経営において不可欠である。

0 1 中小企業における財務諸表の役割と重要性

0 2 財務諸表の種類

0 3 BS（バランスシート）

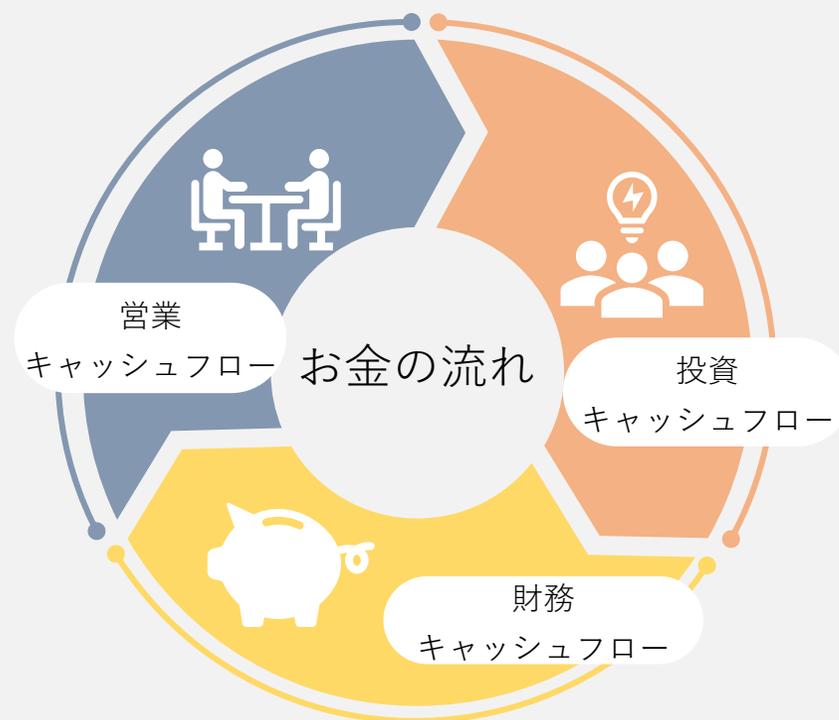
0 4 PL（損益計算書）

0 5 **キャッシュフロー計算書**

## 現金収支を明確にする財務諸表

営業活動を行う上での  
現金の流れ

自らの業務によって現金を  
獲得または支払った金額



投資活動による現金の流れ

資産を取得するために行う支出や、既存  
の資産を売却することによって得られる  
金額

現金をどのように配分して  
いるかという現金の流れ

株主に対する配当や債務の支払い、新し  
い借入金の返済などの金額

例えば、収益はあるが顧客からの入金が遅れた場合、収益はあるものの現金不足に陥り経営が困難になる可能性がある。

キャッシュフロー計算書を見ることで、企業が将来の現金の流れをどのように確保するかを理解し、適切な財務戦略を立てることができる。